

残したいもの 伝えたいもの
～過去・現在・未来をつなげる地域学習～

授業者 附属池田小学校 高山翔平

1. 対象 附属池田小学校第四学年東組(34名)

2. 単元目標

府内の伝統や文化について、歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取り組みなどに着目して、見学・調査したり図表などの資料で調べたりして、新聞などにまとめることで、府内の文化財や年中行事の様子を捉え、人々の願いや努力を考え、表現することを通して、府内の文化財や年中行事は、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習課題を追究・解決しようとする態度や、地域の伝統や文化の保存や継承に関わって、自分たちにできることを考えようとする態度を養う。

3. 指導に当たって

(1) 教材観

本単元では、府内にある大阪天満宮を取り上げる。大阪天満宮は、文化財としての価値だけではなく、天神祭をはじめとした年中行事も人々に広く知られており、府内有数の歴史ある観光名所である。年中行事や文化財は、しばしばその歴史的不変性が強調されがちだが、実際には様々な時代の人々の工夫や願いによって変化を遂げ、よりよいものとして受け継がれてきたものが多く、大阪天満宮もこれに当てはまる。児童にとって伝統や文化にフォーカスして学習する初めての教材であり、過去・現在・未来をつなげて考える視点を持つことが期待できる教材である。また、大阪天満宮の伝統や文化の変化の側面に注目して学習することで、校区内、近隣市町村の年中行事や文化財に対しても類似性を見つけ、同じ見方・考え方で捉え直す発展的な学習にも適している。

(2) 児童観

3年生では池田市内の地域学習に取り組んできたが、4年生ではその範囲を広げ、大阪府内の地域について学習している。3年生で獲得した地域を多角的に思考し、課題に対して自分たちにできることは何か考える視点をさらに広い視野で捉え直している。本学級の児童は、地域の良さや課題に対して意欲的に向き合い、PR活動や自分にできることは何かを真剣に考えてきた。その過程の中で、出前授業でのインタビュー、実際に現地へ赴き体験するなど、調査活動に必要な技能を身に付けている。また、そこで得た知識を模造紙にまとめるなどのパフォーマンス課題にも取り組んできたため、表現活動にも慣れている。ただ、既習事項の中では「目に見える相手」に対して思いに寄り添うことは多かったが、伝統・文化の発展に尽くしてきた先人たちの思いについて触れる機会は少なかったため、「目に見えない相手」に対して思いに寄り添うことは、発達段階的にもまだ難しいと予想される。

(3) 指導観

前述の児童の実態を踏まえて、まず聞き取り調査や資料から、伝統や文化に尽くしてきた先人たちの思いについて触れさせたい。さらに、出前授業などから現代に受け継いでいる人の思いにも触れ、伝統行事や文化財は過去から現在に繋がっていることに目を向けさせられるよう新聞などにその都度まとめさせるなど、捉え直しの時間を取る。そして、知り得た現在の良さや課題を未来にどのように受け継いでいくべきなのか、そのために自分たちにできることは何か幅広く考え、表現する学習に取り組む。そのような学習から、校区内、近隣市町村の伝統行事や文化財に対しても類似性を見つけ、同じ見方・考え方で捉え直す発展的な学習につなげていきたい。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取り組みなどについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、府内の文化財や年中行事の様子を理解している。	文化財や年中行事を保存したり継承したりしている人々の工夫や努力と地域の人々の願いを関連付けて考えたり、学習したことを基に地域の伝統行事や文化財の保存や継承に関わって、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりして、表現している。	今までの学習で身に付けてきた見方・考え方を活用して、府内の文化財や伝統行事について予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

5. 指導計画(全12時間)

時間	学習内容	主な評価規準	評価の観点			評価方法
			知技	思考	態度	
1	現在と昔の大阪天満宮を比較し、学習計画を立てる。	学習問題の解決に向けた問いを見出し、学習計画を立てている。		●		発言・ノート
2,3	大阪天満宮がこれまでどのように守られてきたか理解する。	必要な情報を集め、読み取り、大阪天満宮を保存してきた人々の願いや努力を理解している。	●	○		発言・ノート
4	大阪天満宮の年中行事を確かめる。	大阪天満宮の年中行事に込められた人々の努力や願いについて理解している。	●			発言・ノート
5,6	資料を基に、天神祭りがどのような祭りか理解する。	必要な情報を集め、読み取り、天神祭りの起源や歴史を理解している。	●	○		発言・ノート
7,8	天神祭りに関わる人の思いや願いに触れる。	調査を基に、天神祭りに関わる人たちの努力や願いについて考える。	●	○		発言・ノート
9~11	天神祭りを受け継いでいくために自分たちにできることを考える。	天神祭りを受け継いでいくためにできることを考え、まとめる。		○		パフォーマンス 課題
12 【本時】	身近な地域の伝統や文化について考える。	今までの学びを、他の伝統や文化に置き換えてできることを考えている。		○		発言・ノート

●・・・形成的評価(指導に活かす評価) ○・・・総括的評価(記録に残す評価)

6. 本時の展開

(1) 本時の目標

今までの学習を、校区内や近隣市町村など児童の身近な伝統行事や文化財に置き換え、自分たちにできることは何か考え、まとめている。

(2) 本時の評価規準

【思考・判断・表現】既習事項から校区内、近隣市町村の伝統行事や文化財の良さや課題に対しても類似性を見つけ、自分たちが伝統を未来に受け継いでいくために何ができるかを考えている。(発言・ノート)

(3) 本時で発揮されるグローバル市民性について

グローバル市民性とは、地域の社会的課題を自分自身で発見し、それにどのように参画すべきなのか答えを見つけ、実践していくことであると考え。本時の展開において、事前に調べてきた児童の校区内、近隣市町村の伝統行事や文化財の良さや課題を交流する学習活動がある。この交流の中で、児童が調べてきた伝統行事や文化財に対しても天満宮が抱える課題と同じような課題が見られ、それを受け継いでいくためにできることもまた似ていることに気づくだろう。自分自身にとって身近な伝統や文化を未来に受け継いでいくために何ができるか考え実践しようとする態度が表出した時や、伝統工芸品など時代の移り変わりによって消えつつあるものにも同様の類似性があるということに気づくことができた時、グローバル市民性が発揮されたと言えるだろう。

(4) 展開

学習過程	学習活動および内容	指導上の留意点	評価の観点・方法
導入 5分	・今までの学習を振り返る。	・大阪天満宮について学んだこと、自分に身近な伝統行事や文化財も守っていきたいという思いについて振り返り、学習課題につなげる。	
展開 30分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">わたしの町の〇〇を引き継いでいくためには、どんなことができるだろう？</div> ・調べてきた伝統行事や文化財の良さや課題を交流する。 ・調べてきた伝統行事や文化財を未来に受け継いでいくために自分たちにできることを考える。	・複数の発表を聞くことによって、それぞれの伝統行事や文化財を未来に受け継いでいくための良さや課題には類似点があることに気づかせたい。 ・類似点を考えていくことで、伝統的に引き継がれているものすべてに同様の課題があると一般化できるよう話し合いを進めるようにする。	【思・判・表】既習事項から、調べてきた伝統行事や文化財の良さや課題に対しても類似性を見つけ、未来に受け継いでいくために何ができるかを考えている。(発言・ノート)
まとめ・ふりかえり 10分	・ノートにまとめを書く。 ・ノートに振り返りを書く。	・話し合いを基に、自分にできることをまとめとして書くよう指示する。 ・振り返りにおいてもグローバル市民性が発揮される記述があるだろう。評価規準に則って見取るようにする。	